

2022年度熊野寮祭実行委員会総括

責ごとに文責が異なります。その都合上、総括形式・文体等も責ごとに異なりますがご了承ください。

1.全体総括

前年度寮祭実行委員会の主催によって7月9日に行われた寮祭説明会兼寮祭実立ち上げ会において、寮祭と各責の仕事内容についての説明を受けた後、実行委員長1名、副実行委員長4名、会計責1名、企画責3名、広告責3名、パンフ責3名、記録責3名、広報責3名、グッズ責2名、タテカン責2名を選任し、また前年度の寮祭実新たに新設された渉外責に1名、デザイン責に1名、人権擁護責に4名、クラファン責に2名を選任(責を掛け持ちする者もいて重複あり)。その他16名を平実行委員として、新入寮生総勢39名による2022年度熊野寮祭実行委員会(以下、寮祭実と示す)が発足した。会議を経るごとに新たな実行委員も増え、web責に1名、コロナ対策責に1名、デザイン責に新たに2名が追加選任された。

1.1 全体会議

例年と同様、夏休み前、夏休み中は不定期に、夏休み後は週1回のペースで、寮祭後にも1回、計12回の全体会議(以下、会議と示す)を行い、毎回20～30人ほどの実行委員が参加してくれた。会議内では、各責が進捗報告を行った後、取り上げたい議題を話し合った。初期の段階で、会議は毎週土曜開催を基本方針としたが、全寮規模のイベントが重なることが多く、日曜開催のほうが多かった。お祭り感を演出するために司会を務めた実行委員長は前年度委員長から引き継いだ法被を着用し、会議は一本締めで締めた。11月に入ってからには司会を副実行委員長にも回したり、委員の発言のしやすさを担保するために書記を上回生に頼んだりもした。「誰も置いておかない寮祭実、会議にたくさん人が来る寮祭実」を正副実行委員長が方針としたことから、会議は毎回1時間～1時間半程度と長引かないようにし、委員に来てもらうために会議中にお菓子等を提供し、会議後にGoogleフォームを使った会議のアンケートに回答してもらうことで、よりよい会議運営を目指した。しかし、会議を構成する委員間の会議に対する意欲の乖離があり、議題についてじっくりと話し合う場としては機能せず、最終的には報告会のような雰囲気となった。寮祭・寮祭実についてじっくりと議論する場としては下記の通り、正副実行委員長会議が機能した。

1.2 正副実行委員長会議

よりよい会議運営のため、会議内容を打ち合わせたり、長引きそうな議題について事前に検討するための場として、正副実行委員長の都合のつく日時に、週1回のペースで正副実行委員長会議(以下、正副会議と示す)を行った。当初は正副実行委員長の参加のみで開催していたが、「正副会議、正副実行委員長に閉ざされたイメージがある」「正副実行委員長だけで全てが決められてしまっている感がある」という指摘が寮祭実内から挙がったため、有志は参加できる形態にしたり、議事録も下記の寮祭実LINEグループに共有したりと、開かれたものにした。寮祭・寮祭実についてじっくりと話し合う場として機能したが、会議内容の打合せ等の当初の目的は薄れてしまった。

1.3 平実行委員

上記の通り、責に所属してはいないが会議には参加してくれる人を平実行委員(以下、平寮祭実と示す)に任命し、各責(企画責や広告責など)の手伝いに充たってもらった。

1.4 コンパ

先ほど述べた「誰も置いておかない寮祭実、会議にたくさん人が来る寮祭実」の方針の下、委員間の仲を深めることを目的に、会議後、積極的にコンパを開催した。毎回多くの委員が参加してくれ、目的は大いに達成できたように思う。また、10月末には前年度実行委員会が1,2回生コンパを開催してくれ、これを機に1,2回生のつながりも深めることができた。

1.5 LINEグループ

例年と同様、寮祭実全員が参加するLINEグループを開設し、業務連絡等に活用した。50名が参加した。前年度の寮祭実が活用したSlackは、使える人が少なかったために今年度では使用しなかった。

1.6 LINEオープンチャット

前年と同様、寮祭、寮祭実、またたわいもないことについて匿名で気軽に発言できる場を設けるため、寮祭実規模、そして全寮規模の2つのオープンチャットを開設した。多くの人が参加してくれ、有意義なものとなったが、オープンチャット内で出た建設的な意見に対する対応が、匿名だからということで優先度が低くなってしまった。

1.7 ビラ、ポスター、パンフ配布

パンフ責が制作したビラやポスターは広告を提供してくれた店に配布した。また、SC主催のキャンパス情宣や3年ぶりに開催されたNFに乗じて、構内に多くのビラやパンフを配布することができた。

1.8 寮祭の高校周知について

寮祭を通じて高校生にも熊野寮について知ってもらおうという狙いから周辺高校にチラシ配布を行った。22校に対して電話で打診を行い、18校からチラシ送付の許可を頂いた。動き出しが遅く、チラシの寮到着のタイミングが遅かったこともあって、寮祭開始に送付を間に合わせるためにも、速達にて送付を行った。各高校とは電話でのやり取りのみであり、直接現地に出向くことはしていないため、掲示されていたかどうかは不明。

1.9 実力闘争について

今年度の寮祭では総長室突入が行われたが、上記の「誰も置いていかない寮祭実」という方針に照らし合わせた上で、今年度の寮祭実には総長室突入について日程調整でしか関与しないというスタンスをとった。しかし、実力闘争に関心を向ける寮祭実構成員は多く、会議後に寮祭実有志だけで実力闘争について話し合うという場を設けたりしたこともあった。寮祭実としては寮祭初日に前年の「シン・時計台コンパ」の系譜を継ぐ企画として「熊野寮D棟コンパ」を開催した。

1.10 謝辞

寮祭実として至らない点は多々あったかと思いますが、今年度の寮祭実の様々な活動に対してご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。そして、私たちと一緒に寮祭を最高に盛り上げ、最高に楽しんでくださってありがとうございました。無事に寮祭を貫徹でき、我々寮祭実一同、嬉しい限りでございます。

2.会計責

I 仕事内容

- ・金庫の管理
- ・予算の振り分け(企画責と共に)
- ・広告費、自治会費等の収入の管理
- ・レシート回収に関するこまめな周知
- ・レシート回収とそれに基づく寮祭関係支出の計算
- ・決算表の作成

II 仕事の流れ

【寮祭前】

- ・収入を概算し、企画、タテカン、グッズ、パンフのおおまかな予算の枠組みを決めた。
- ・各ブロックの広告担当者にお店に渡す領収書をまとめて渡した。
- ・各人に振り分けられたお店の広告費を回収した。
- ・企画責と共に企画一つ一つに仮予算として振り分けた。
- ・仮予算をグーグルスプレッドシートにまとめたものを各企画者に周知し、変更希望を募った。
- ・変更希望をもとに予算の最終決定を行い、確定版として周知した。
- ・レシートの回収方法及び注意点についてブロック会議やオープンチャットにて周知した。

【寮祭期間中】

- ・回収する時間帯をオープンチャットにて周知して各企画の予算を集めた。

【寮祭後】

- ・回収する時間帯をオープンチャットにて周知して各企画の予算を集めた。
- ・予算の余剰金を計算し、補正予算とし新たにふり分けた。
- ・決算表を作成した。

III 反省

【広告費回収について】

- ・各人がお店からもらってきたお金はトラブルの原因になり得るためブロックの広告担当が集めるのではなく、直接自分が受け取ることにした。しかしこれは自分が暇だからできたことであり、忙しい場合は普通にブロックで集めて回収してもいいと思った。
- ・大半は定めた期限内に回収できたのでよかった。

【レシート回収について】

- ・寮祭期間中から回収を行った。オープンチャットにてレシート回収を行う日時を実際に行う1日前に周知した場合と直前に周知した場合とで大きく提出されたレシート数が異なった。寮祭期間中で予定が組みにくいとはいえ早めの周知を徹底すべきだった。
- ・会計自身の体調不良の影響で回収期間を変更せざるを得なかった。

【補正予算について】

- ・予算が当初の予定より多く余ったため補正予算を組んだ。各企画のカンパ額を聞くのを失念しており、補正予算を出す直前になってしまったのはとてもよくなかった。

【その他】

- ・グッズ代は68万円にのぼり個人での建て替えが不可能だったため一時的に金庫のお金を貸し出し、グッズが売れ次第回収した。この行動が企画予算の配布に被らなかったため金庫内のお金が危うくなることはなかった。
- ・2800円の損金を出してしまった。理由として、企画者に予算を渡す際に1000円多く渡してしまったり、途中500円玉が切れて100円玉を多く扱っていた際に多く渡してしまったことが考えられる。

これらは全て不注意から生じるものであり、会計としても確認の徹底がなされていなかったと感じる。

・例年会計の負担の増大から会計担当者を増やすことが必要なのではないか、との指摘を受けるが、金庫の管理が難しい、との理由から行われなかった。なので、金庫を二つにして会計担当者を二人にすることでそれぞれの担当するお金も明確になり、会計の負担を削減できるのではないか、と思う。

IV 決算表

監査の承認を得て以下に表を掲載する。

https://1drv.ms/x/s!AiaJufmI_uZ6iCoWh6y2fpqXU7D5

3. 企画責

時系列順に仕事別にしたことと反省を書いた。

・企画一次募集

7月中に企画一次募集を始めた。7月の寮祭実会議後に企画募集BOXを作り、各談話室・食堂に設置し、企画募集用紙を作成して集めた。さらに、google formを利用してオンラインでの提出も可能にした。募集しているという旨をブロック会議の議案で周知した。また、寮外用募集フォームを作り、寮外生から「企画の運営もやる」、「企画案のみ」の2通りの方法で募集した。締め切りは10月10日に設定した。例年より動き出しが早かった。寮祭実会議の後に箱を作ったり、ポテッカードをつくったのは良かったと思う。企画募集BOXをつくり、企画募集用紙を半分に切るという作業をした後に企画を出していたのは盛り上がっていた。

・スローガン集め、決定

寮祭スローガンをあつめました。集めた方法は企画一次募集と同じです。10月10日に締め切って寮祭実内で投票した。「一生心に残る汚点を」になりました。

・恒例企画催促

企画一次募集中に行った。毎年一回生が企画者をおこなうものについては寮祭実の会議で募集し、そうでないものは去年の企画者に打診した。去年の企画者に打診するのが遅かった。8月中に終わらせるべきだった。

以下企画一次募集終了後

・企画者会議

10月12日と17日に企画一次募集を出した人に対して企画者会議をおこない、企画二次募集のフォームを配り、企画者オープンチャットに入ってもらった。企画者オープンチャットとは企画者への連絡に使うオープンチャットで名前を部屋番号+本名で入ってもらった。また、この会議については、出席しなければ企画二次募集を出せなくて企画を出せなくなるため、周知を徹底した。会議日程をJKと確認しなければならなかったことから思っていたより日程の調整が遅れ、日程が確定したのが遅くなってしまったので全力で周知をしなければならず、大変だった。何事も早く日程を確定させることが大切である。

・企画二次募集

一次募集よりも詳しい情報を二次募集として集めた。こちらは、google formのみでの提出にした。この旨もブロック会議で周知した。同時に企画広告画像も集めた。締め切りは10月23日とした。

・JKチェック

JKIに企画二次募集で集まった企画二次募集の内容を渡し、チェックしてもらった。

・タイテ作成

寮祭実の有志で徹夜をして模造紙を用いてタイムテーブルを決めた。みんなで作業をしたので楽しかった。大勢でできる作業は大勢でわいわいすべきである。しかし、この期間に企画責に仕事集中してしまったため、スプレッドシート等書き起こすことができず、模造紙を写真に撮ってタイテの周知、確認をおこなってしまった。大変見づらいという意見が多く寄せられた。このような手間は惜しまないようにするとともに、役割分担をおこなって疲弊しすぎないようにするべきであった。

以下企画二次募集終了後

・予算決め

会計責とともに各企画の予算を決めた。

以下寮祭中から寮祭後

・企画総括集め

google formを用いて各企画総括を集めた。寮祭期間中に企画総括を書きたいという意見があったため寮祭期間中にgoogle formを作った。12月9日のブロック会議に間に合わせるために12月7日締め切りにした。

4. 広告責

【活動内容】

- ①ブロックに委託する広告主リストを作成した。(主に飲食店)
- ②twitterで広告を募集した。(主にサークル)
- ③各ブロック代表をきめ、代表の監督の下、ブロックに割り振った分の広告を取りに行ってもらった。
- ④寮生等に広告を出してくれそうなコネを募集した。
- ⑤吉田寮祭のパンフレットの広告主や今出川通や丸太町通の店に広告を出していただけないか打診した。
- ⑥広告が確定したら必要な分の広告を制作を行った。
- ⑦web責と広報責にそれぞれweb広告とtwitter広告の制作を依頼した。
- ⑧仮パンフが完成したあと、各ブロックに仮パンフ確認を委託した。
- ⑨最終パンフが完成したあと、各ブロックに最終パンフを店に届けてもらう作業を委託した。

・広告の総額は432000円で前年より133000円多かった。

【良かった点】

- ・夏休み前から準備をしていたため、ある程度余裕を持って仕事を行うことができた。
- ・吉田寮祭のパンフレットの広告主になってくれた店に逐一電話をかけていった。
- ・今出川通や丸太町通の店を手当たり次第回った。

【反省点】

- ・新規の店が多すぎたせいで広告をつくるのが大変だった。
- ・広告確認のぬけもれが2件あった。2件とも印刷が粗く事前に確認する必要があるがあった。
- ・ブロック代表と折衝がうまく行かず締切が守られないことがたびたびあった。
- ・領収書や最終パンフ確認など事前につめておくべきだった。
- ・広報責やweb責ともっとこまめに連絡を取るべきだった。

5.パンフ責

(文字数多いです。)

2022年度の熊野寮祭実行委員会パンフ責(3名)が担った主な業務は、パンフ製作、ビラ製作、ポスター製作の3点である。本総括ではこれら3つの業務の項目に、その他を加えた以下の4項目に分けて総括する。

目次

1. パنف製作

- a. パنف全体について
- b. 発行部数について
- c. 締め切りの設定について
- d. パنفのコンセプトについて
- e. フッターネタについて
- f. 印刷について
- g. 寄稿文について
- h. 仮パンフについて
- i. 綴込みについて
- j. 印刷に使用した紙について
- k. 電子パンフレットについて
- l. 企画画像・広告画像のサイズについて

2. ビラ製作

- a. ビラAについて
- b. ビラBについて

3. ポスター製作

4. その他

1. パنف製作

各作業についての細かい内容は引継ぎとして今年のパンフ責が来年度以降に責任をもって継承することとし、寮祭実全体や全寮関わった業務を中心に総括する。

1-a. パنف全体について

編集には無料デザインツールCanvaを利用した。Canvaを選択した理由は3人で同時編集ができる点である。Canvaは問題なく利用できた。パンフはおよそ2000部ほど製本し、NFやD棟コンパを初めとする諸企画で頒布し、すべて撒くことができた。今年の寮祭パンフはカラー部分を除き200ページに上る分厚いものとなった。ページ数が多く分厚いパンフは、編集しているときや製本しているときには大変で、ネガティブな印象を持っていたが、パンフを受け取ってくれた人たちが、厚さに驚いたり喜んでくれたりしたことは、大変良かった。

1-b. 発行部数について

NFを考慮して、昨年よりも大幅に発行部数を増やしたが、すべて撒くことができ、特にパンフ不足が問題となることはなかった。NF全学実文責者は出席し、情報収集はできていたものの、NF

の規模が想像よりも小さかったため、NFの規模を見誤ったものの、パンフの部数がちょうどよかったという結果になった。また、寮祭企画がSNSでバズるなどして大量の人が寮祭に来ることは、発行部数を決める段階で予想できないので発行部数を事前に決めるよりも、追加で増刷する体制を整えることも重要であった。NFの開催形態が大きく初版発行部数に結びつくので、本物のNFを知っている上回生に聞くことも含め、情報収集は必須である。

1-c. 締め切りの設定について

締め切りは関係する責と直接話し、BL会議の日程等を考慮し、最終的に11/19日より開催されるNFでパンフを配布できるように設定した。夏休みに入る前にすべての締め切りを確定してスケジュールを組んだ。しかし、企画責および広告責の負担を鑑み、8月末に締め切りを延長する方針で再設定した。これによって広告回りの仕事の期間と、印刷・綴込みの期間が短縮されてしまったが、余裕をもってスケジュールを組んでいたため、影響は少なかった。結果的には各責に負担が集中するスケジュールから、寮祭実や寮生に負担が分散するスケジュールに転換できた。それだけでなく、今年は集まった企画数、広告数ともに例年を大きく凌駕しているが、これは各責のパフォーマンスを発揮できるスケジュールに、話し合っ設定できたともいえる(なによりも企画を出してくれた企画者や広告を出してくれた広告主の方々のおかげであることは間違いない)。これらの結果は、締め切りの設定時期が早かったことが功を奏したと考える。また、今年の寮祭実では、パンフ関連で設定した締め切りはすべて守られた。協力してくれた各位にはこの場を借りて感謝したい。

1-d. パنفのコンセプトについて

今年のパンフのコンセプトは「絵日記」であった。理由は面白そうだからである。ページ端の索引を鉛筆と消しゴムにし、企画画像のフォーマットは罫線を入れた。また、企画紹介で手書きの文字の掲載を可能にし、入力の手間の削減と絵日記感の演出をした。フォーマットを無視した提出も含め、おもしろいパンフができたと思う。

1-e. フッターネタについて

フッターネタは、内輪ネタなどの多くの人にとってどうでもいい内容を書く、パンフを読む際の息抜きのものと位置付けて作成に取り組んだ。企画ページのすべてに掲載することを計画し、7/20のBL会議で募集議案を出した。募集は匿名でグーグルフォームで行った。しかしグーグルフォームでの集まりが悪かったため、BL会議の募集は数回で打ち止めにし、企画者会議において企画者に対し、企画に関するフッターネタを集めるなど、フッターネタを出しやすいような募集方法の工夫を行った。フッターネタが集まらなかった原因の一つには、フッターネタ掲載のモチベーションを、募集の際に伝えきれなかったことが挙げられる。最終的には、昨年のパンフのフッターネタも利用し、計画通りに企画ページのすべてにフッターネタを掲載することができた。投稿してくれた方々に感謝したい。

1-f. 印刷について

パンフ印刷は寮の印刷機で行った。印刷予定の紙の枚数は2500部×200ページ÷4で125,000枚であった。パンフのページ数が確定する前に厚生課に紙を80,000枚発注していたが、パンフのページ数が膨らみ、追加で紙を発注したが、結果として寮祭実予算を圧迫してしまった。またインクカートリッジも追加で8個購入したがこちらは資料委員会に購入してもらった。寮祭パンフの印刷が原因で今期の資料委員会の予算のインク代を大きく上回ってしまった点は反省点である。寮祭がある期(偶数期)の資料委員会のインク代については気を配り、資料委員会にも周知していくべきである。

1-g. 寄稿文について

今年の寮祭パンフの寄稿文はくまのまつりに出演してくださっているシンガーソングライターの川口真由美さんに依頼した。くまの夏の夜まつりに出演してくれた際に声をかけ、二つ返事で快諾していただいた。特に問題なく進行し、素敵な寄稿文がパンフに掲載された。

1-h. 仮パンフについて

仮パンフは、企画タイムテーブルの確定とBL会議の日程の都合上、開始時間順に企画を並べることができず、レイアウトの変更を前提としたものになってしまった。拙い仮パンフであったが、多くの助言を各談話室からいただくことができ、本パンフの作成に大いに役立った。協力してくれた寮生各位には感謝したい。

1-i. 綴込みについて

綴込みは全寮に周知し、2回に分けて開催した。多くの寮生の協力により大量のパンフの綴込みを終えることができた。綴込みに使用したステープラーについて、今年のパンフは50枚であったため、例年使用している入選のステープラーが使えず、新しく入選での議論の上、購入してもらった。パンフのページ数が読めなかったことに起因する問題ではあるが、今回購入したステープラーは壊れやすいものであるため、入選でステープラー用に多めに予算を確保してもらうなどの対策が今後は必要である。また、今年は全部で何部製本したかを管理していなかったが、発行部数は印刷した枚数から算出することが可能であり、あまり必要がないと感じた。それよりも製本したパンフの大量紛失を防ぐことの方が重要である。段ボールに詰めて食堂に積んでいたため、1箱くらい紛失しても分からないが、大量の紛失は確認されなかった。

1-j. 印刷に使用した紙について

厚生課からもらえる紙は白色度が低いので、厚生課の紙は、資料委員会が購入した紙と交換していたという引継ぎを受け、資料委員会に確認したところ、去年は交換していないとのことだったが、実は交換していたことが後ほど分かった。資料委員会とうまく連携が出来なかったことは反省すべきである。しかし、追加購入したしっかりした紙は綴込みの負担が大きかったため、質の低い厚生課の紙を使用することになったことは結果的には良かったといえる。また、厚生課の紙でも特に問題はなかったため、必ずしも資料委員会と交換する必要はない。

1-k. 電子パンフについて

今年はパンフレットのPDFファイルを、電子パンフレットとして利用した。PDFファイルのQRコードをビラとポスターに掲載することで、パンフレットの参照性の拡充に貢献した。電子パンフレットをSNS上に公開することの是非について寮祭実内で議論があったが、パンフがクラウドファンディングの返礼品であったり、パンフ広告とTwitter広告を別で集めていた関係で、クラウドファンディングの支援者や広告主に対する公平性の観点から、電子パンフレットのQRコードは、SNSには掲載しなかった。

1-l. 企画画像・広告画像のサイズについて

企画画像は基本はページの1/4で掲載し、目玉企画や恒例企画を中心に、パンフ責・企画責の独断と偏見を織り交ぜ、パンフ全体のレイアウトも考慮しながら、1/2サイズと1/1サイズも掲載した。1/2サイズは、横長のため別のフォーマットに記入してもらった。広告画像は広告料金にあわせて、1/8、1/4、1/2、1/1サイズを掲載した。ただしレイアウトの関係上、広告料金に対応するサイズよりも大きいサイズで掲載する場合があったが、その際は広告主に確認をとった。

2. ビラ製作

今年はビラを2種類作成した。2種類作成した理由は、ビラに載せて広報したい内容が時期により異なっていたためである。以下では白黒のビラとカラーのビラをそれぞれビラA、ビラBとする。

2-a. ビラAについて

こちら無料デザインツールCanvaで編集し、B5の片面白黒で寮の印刷機で印刷した。パンフの製作が本格的に始まる前の余裕がある9～10月に製作した。この時期に製作した目的としては、10/8に予定されていた熊野寮コンパで寮祭の周知をするため、また、製作者がCanvaの操作に慣れるためであった。ビラAでは、幅広い層に寮祭を認知してもらうことを目的として、日程の他に、通常の祭りとは違う寮祭の軽い説明と、集客力のある目玉企画(鴨川いかだレース、エクストリーム帰寮など)の紹介を掲載した。実際に熊野寮コンパに間に合うようにビラAは完成し、予定通り撒くことができた。また製作者がCanvaに慣れることもできた。さらに、このビラの完成度は高かったため、キャンパス情宣などの寮外向けイベントの度に寮祭の周知方法として利用した。

2-b. ビラBについて

B5で表面をカラー印刷、裏面を白黒で作成した。Canvaで編集し、カラー印刷の関係上、印刷は外注した。計画当初は目玉企画の日程やパンフの手引きのような、ビラAよりも詳細な情報を掲載し、カラー印刷を生かしたデザイン重視のビラを想定していたが、詳細な情報はパンフに掲載すればよいと判断し、デザイン性のみでビラAとの差別化を図った。ビラBの作成時期はパンフ責の各々が忙しい時期と重なったため、カラーの表面はポスターと共通のものにして省力化した。また、完成度の高かったビラAを少し改良し、ビラBの裏面とした。さらに、電子パンフや寮祭HP、SNSのQRコードを掲載し、得られる情報量をカバーした。予算の関係上、大量には印刷出来なかったため、当初予定していたNFでの配布は諦め、広告を出してくれたお店の店頭に置いてもらうことにした。ポスターの掲示が難しい場合や、今年の厚いパンフを大量に置くことが難しい場合の補完をしてくれた。

3. ポスター製作

夏休み明けの寮祭実会議で一昨年はポスターを製作したとの話を聞き、広告を出してくれたお店の店頭に掲示してもらうことによる周知効果を期待して製作を決定した。Canvaで編集し、B3カラーで印刷は外注した。寮祭パーカーの背中のデザインを使わせてもらう予定でいたが、パーカーのデザインの完成が遅れたため、ポスターの到着が寮祭開始5日前になってしまった。ポスターの製作が、広告回りの仕事が寮祭直前にずれこんだ一因となってしまった点は反省すべきである。

4. その他

ビラとポスターに共通して言えることとして、何を、誰に伝えたいかについて熟考する前に製作することを決定していたため、製作段階で苦勞することになった。ビラとポスターの内容は広報戦略の一つとして、寮祭実会議で話し合い、より効果的な広報をする余地があった。

パンフ印刷は寮祭実内でシフトを組んだが、寮祭実のライングループに投下した調整さんへの入力は少なく、インクが足りなくなったことが原因で印刷作業が止まり、シフトはほとんど回らなかった。今年のパンフの印刷予定枚数は125,000枚に上ったが、くまのまつりの時期が重なり、少数の人員に大量の印刷業務が集中してしまった。パンフ責が印刷マニュアルを作成し、分担できる作業にしたはずが、分担できなかった。インクが足りなかった点については大量の印刷の経験がなかったことと、インクカートリッジの残機の確認不足が原因であり、来年以降このような事態が発生しないように引き継いでいく。シフトの提出が少なかった点について、周知は寮祭実会議および寮祭実ラインで繰り返し行い、周知不足の面は少ないと感じている。原因としては各人の忙しさによるものもあるが、積極性の差にもあると思う。寮祭実内の積極性の差と、それによる少数への負担集中、さらにそれが原因となる積極的な寮生とその他の寮生の意識の乖離は、寮祭実にとどまらない寮内の組織運営に関わる課題であり、また実際にパンフ責内でも各個人の都合

により仕事量に差が生じ、同様の問題が発生していた。この問題についての認識は来年の寮祭実にも引継ぐ。

最後に、今年のパンフがあらゆる締め切りを超過せず、期限までの完成に漕ぎ付けることができたのは、1. パンフ製作でも述べたように、協力してくれた人たちのおかげである。この総括を締めるにあたって、改めて感謝の意を表したい。ありがとうございました。

6. 広報責

今回広報責が行った仕事は以下の通りである。

寮祭公式Twitter、寮祭公式Instagramでの

- 寮祭企画の事前紹介
 - 企画が実際に行われている様子の投稿
 - DMの返信
 - Twitter広告の投稿
- プレスリリースの送付
その他

〈寮祭企画の事前紹介〉

事前に企画者のオープンチャットにGoogleフォームのリンクを貼り、企画紹介をする際に気をつけてほしいことなどを書いてもらった。

投稿する際は、投稿用に書いたもののスクリーンショットを広報責のグループLINEに送り、メンバー間で内容を確認しあった。

●改善点

企画紹介の投稿頻度が少なかった。一日に紹介する企画数の目安を決めていなかったことや、InstagramやTwitterで企画紹介をする人間が実質それぞれ一人づつになってしまったことなどが原因かと思われる。

〈企画が実際に行われている様子の投稿〉

企画の様子をTwitterなどのSNSで宣伝した。モザイクをかける、うつる人の許可をとるなど、個人情報に配慮して投稿することができた。

現地の写真を一緒に載せることでより注意を引く投稿ができたと思う。

●改善点

投稿者が参加した企画以外のツイートがあまりできず、ツイート数が伸びなかった。記録責と連携してSNSに載せてもいい写真を募り、投稿者が参加していない企画の投稿もできるようにすればよかった。

〈DMの返信〉

熊野寮祭アカウントのDMにきた問い合わせへの対応を行った。

●改善点

返信が遅くなってしまったことがあった。広報責間で情報を共有しておき、誰でも質問に答えられるようにしておくとうよかったと思う。

〈Twitter広告の投稿〉

広告プランの一つとして設定していた「Twitter広告」の作成・広告打ちを行った。今年の熊野寮祭アカウントの伸びが著しかったこともあり、十分な広告効果はあったのではないかとと思われる。

●改善点

広告責との連携がやや杜撰であった。また、この広告の文面作成・予約投稿も一人で行っていたため負担が集中していたように感じる

〈プレスリリースの送付〉

今年から、新たな試みとしてメディアにプレスリリースとして寮祭の開催概要をまとめた資料を送付した。目的としては、寮祭の存在が普通だったらリークしないような層にリークさせる広報を行うことである。送付したメディアは「朝日新聞」「読売新聞」「京都新聞」「産経新聞」「日経新聞」「京大新聞」である。リアクションは、朝日新聞・京大新聞からきた。

●改善点

そもそもプレスリリースは提案者のキャパシティ的に厳しそうであるという事も合って途中までは実行しない方向で考えていた。その影響もあって、いざ実行しようという段になった際に日程に全く余裕がなくなってしまった。加えて、送付するメディアも上記の7社だけであり非常に少なかった。また、プレスリリースを送った後の先方からのリアクションに対応するシステムが杜撰なものとなっており対応が遅れた。

〈その他〉

寮祭が始まる前に「ハラスメント加害者にならないために」と寮祭ハラ対についてをツイートした。寮祭期間中も積極的にこれらのツイートをリツイートしたり、余裕があれば新たなツイートをしたりしてハラスメントの防止を徹底すればよりよかったと思う。

京大職員同好会さん(京職同さん)の「反ワクチンvs京大生」についてのツイートがバズったが、連携が取れずこちらからは何もできなかった。また、寮祭webページが開かれていたことが京職同さんに伝わらず、宣伝が遅れてしまった。

熊野寮が学会に広告を出したことについてツイートした。熊野寮祭に興味を持ち熊野寮祭アカウントをフォローした、熊野寮のことをまだあまりよく知らない層に、熊野寮は学会にも広告を出せる寮だということをアピールできた。

7.デザイン責

仕事内容

寮祭パンフの表紙と、寮祭で出すグッズのデザインを行った。今年デザインしたのはパーカー(またはプルオーバー)とシール、ジッポライター。10月下旬頃には、広告責に頼まれて熊野寮祭のTwitterアカウントのヘッダー部分のロゴをデザインした。

デザインの相談については特に行わず、個人製作で進めてもらった。

総論

締切(寮祭会議での進捗報告)が近いのにデザイン作成途中の人がいたり、グッズ責とデザイン責のメンバーをまとめたアカウントの運用が遅かったり(思いつかなかった)したが、それ以外は概ね滞りなく進んだ。よかったよかった。

8.グッズ責

・主な仕事

作るグッズのアンケート調査及び決定

グッズのデザインをデザインに依頼

イメージ案と予約フォームの製作

発注、販売

クラファンの返礼の製作

パーカー

今年は普通にパーカーを作ることになった。個人的に厚手のものが良かったので、多少値段が上がるがそうした。そちらの方がサイズの種類が多かった。初めに担当者からデザインをもらいシンプルな仮案を会議に出したがもっと絵がほしいと言われ、結果的に別のデザイン責の絵を追加した。色を最大12色から選べたが、12色を採用したので負担が増えた。予約を取っている途中でプルオーバーがいいという意見が出たが、検討すると可能なので採用した。

Zippo

パーカーとシールのみでは去年と同じなので、いつもと違うものをグッズにしようと思い、結果人気の高かったZippoにした。気持ちが萎えてあまり周知をせずに予約数が伸びないようにした割には多くの予約があった。担当者の怠慢、多忙により発注が遅れ、受け渡しが遅くなった。周知は周知さんを2回打つのみでだった。予約終了後にzippoを買えないかと打診されたことが2件あった。心苦しいが、未知の需要のためにリソースを振りまくるのも大変だというパーカーの件からの反省で、予約期間の延長はしなかった。

予約自体は大きな負担ではないが、予約数が伸びると受け渡しに積極的に来ない人も増える。お金と予約した商品とその場で交換する方式をとったので、グッズ責側が不利になった。最終的にはこちらから連絡をすることになった。部分的、または全体として前払いにしたり、元から、一定の期間中に取りに来なかったら、別の人に売るとするのも検討してよいと思った。

シール

あまり売れなかった。寮祭期間中は主にあたたまりや辺りで無人販売を行ったが、在庫と売れ上げが無茶苦茶だった。大きな損失があったわけではない。3種1枚ずつ、合計3枚で200円だったが無人販売の在庫が種類によってバラバラだった。何かを勘違いして購入した人や、ロビーのどこかに消えた在庫があると考えられる。デザインの的に他の機会でも売れると考えられる。

良かった点

- ・サイズが様々な種類のパーカーを選んだこと。
- ・サイズなどによって値段が異なるがすべて同じ価格で売ったこと。
- ・さまざまな選択肢を提供できた。
- ・直前に生まれた意見を反映させることができた。
- ・販売方法があやふやな割には帳尻があった。

反省点

1. 準備段階で、夏休み前に予定を練らず、夏休み後に始めたので、スケジュールに余裕がなかった。
- ・平行に進む仕事が多く、グッズ責内で仕事を割り振るのが難しかった。
- ・初期段階から販売のことまでの流れを考えなかった。
- ・グッズの種類、数を増やしすぎて、收拾がつかなくなりかけた。
- ・パーカーの種類が多くなり、1種ごとの発注数が減り、採算が取れない可能性があった。予約期間の延長と実長副実長の助けによって何とかだった。

- ・販売、配布方法を決定する前に最後の寮祭実会議が終わってしまった。
- ・寮祭期間中にあまり販売しなかった。計画を立てていなかった。
- ・仮案に対する意見をとることを時間的にできないときが多かった。
- ・夏休みが終わってからデザイン責に仕事を投げるが多かった。
- ・パーカーのデザインを最終修正案ではなくその一個前の案で発注してしまった。デザイン責の人と認識の不一致、発注のギリギリまでデザインの期限を延ばしたこと、最終確認をデザイン責の人と一緒に行わなかったこと、などが要因だと考えられる
- ・デザインへの指示、説明が不十分な時が多かった。
- ・計画性がなく利益がほぼ出なかった。
- ・クラファン責の言うことを聞きすぎて負担がかなり増えた。クラファン責に限らず、なるべく意見を取り込もうとして、後の負担が増大した。

2. 販売、配布段階で、準備段階のときに販売、配布までよく考えていなかったので業務を増やしすぎて販売の途中に想像以上の負担で潰れた。結局、仕事を放棄し、大抵のことは実長副実長あたりがやってくれた。計画的に負担を分散すべきだった。

- ・寮祭実の会議に毎回出ている人には販売を肩代わりできるように説明、指示をすればよかった。
- ・予約されたパーカーの受け渡しをしようとしても寮生は積極的に来てくれるものではないので、途方に暮れて潰れた。食堂でキレて愚痴ったら副実長の人たちが肩代わりしてくれた。予約した人本人や同ブロックの人に直接連絡をすることでなんとかしてくれた。
- ・シールが一部紛失した。
- ・寮外生に売るときに利益を上乗せするのを忘れ、結局予約販売と同じ値段で最後まで販売していた。寮祭の最終日夕方時点では赤字だった。

9.記録責

業務内容

- ①寮祭期間前 会議の様子を主に撮影した。
- ②寮祭期間中 各企画の動画撮影や、記録責以外のひとが撮ったものを集めるための記録用のgoogledriveの運営をした。
- ③寮祭期間後 撮った動画を編集して、寮内でのオリエンテーション用とクラウドファンディングの返礼品用の寮祭まとめ動画を作る予定。

総論

寮祭前はほかの責の手伝いをしていた。寮祭期間中の動画は情報部とJKのカメラで撮っていたが、ひとつは水没、もうひとつは原因不明の故障により、寮祭後半はスマホで動画を撮ることになった。申し訳ありません。肖像権についても途中で議論が行われた。寮祭後の編集作業はこれから行う予定である。撮った動画・集まった動画は合わせて30時間くらいの量になった。ご協力ありがとうございました。

10.web責

はじめに

まず、僕はWIXというウェブ制作サービスを用いたのですが、それは失敗でした。寮祭サイトでは大量の企画の情報を乗せることになりますが、そのような処理を行うにはどうしてもコードを用いた方法が必要になります。そのため、手作業でウェブサイトを作成することしかできないそのようなサービスは寮祭サイトの制作には不向きであります。

ですから、次年度のWeb責任者の方が取れる選択肢としては「2021年度のように一から勉強してウェブサイトを作成する」ということになると思います。

この方法をとったとしても、企画一覧ページを作成するに当たり、コーディングに必要な企画情報の成形が必要です。そこでちゃんと企画責、パンフ責の方と連携が取れていないと、大量の情報を手作業でエクセルにまとめることになります。

月ごとの進捗

7月、8月、9月 多忙につき作業進まず

10月前半 Wixにて作業を始め、作成するページを前年度を参考にして決定、レイアウトを完成させる。

10月後半 企画一覧以外のページが大体完成するも、企画一覧ページの作成方法に悩む。

11月前半 結果として、自分の整理したデータを基に企画一覧を生成するhtmlを先輩に作っていただき、それをそのままWix経由で貼り付けという方法で制作。

各ページの総括

ホーム

前年度を参考に、実施日時を掲載した。

熊野寮祭とは

熊野寮祭に関する概要を掲載した。

注意事項

パンフのハラスメント対策のページを抜粋して掲載した。

企画タイムテーブル

パンフから抜粋して掲載した。

企画詳細

前述のように作成した。

主にパンフ責の方からいただいたエクセルファイルと企画広告画像を用いてデータを作成した。この際、企画広告画像のファイルネームをエクセルに写し取る作業に時間がかかった。

最後に

最後に強調しておきたいのは、やはり企画責、パンフ責との連携が非常に大切だということです。ここで作業プロセスに関するすれ違いや必要な情報などに関する抜けがあると、大量の情報を手作業で修正する必要に駆られます。最初期の段階でどのように企画一覧ページを作るか、その場合どういう情報がどういう形で必要で、その情報を最も簡単な形で(責全体としての負担を減らす形で)入手する方法は何か、ということを考えたほうがいいと思います。

11.クラファン責

1 業務内容

昨年度に引き続きクラウドファンディングサイト「CAMPFIRE」にて、クラウドファンディング関連の業務を行った。具体的には、クラウドファンディングサイトの作成、返礼品の選定、活動報告の投稿、返礼品の発送を行った。

1.1 クラウドファンディングサイトの作成

本年度はクラファン責を二名設定したため、画像と文章で分担して作成した。

1.2 返礼品の選定

グッズ責、パンフ責、記録責と折衝をして返礼品の選定を行った。今年は新たに3千円、3万円、10万円プランの設置を行った。

1.3 活動報告の投稿

クラファンページで文章担当であった人間が引き続き投稿した。

1.4 返礼品の発送

返礼品を順次発送していく。本総括が議案としてブロック会議に提出されている地点ではまだ発送は行っていない。

1.5 クラウドファンディングの広報

本年度はTwitter上の広報と同釜会へのメール送信を行った。

2 活動結果

2022年11月10日～2022年12月5日までの25日間を通して、91人の支援者から合計534,500円の支援をいただいた。これらの支援から手数料を差し引いた440,428円を来年度の寮祭実の活動資金として繰越す予定である。

3 反省

- ・クラファンサイトを作成し始めるのは早かったが、グッズの完成が遅れたり、紆余曲折あって難航したため、公開がかなり遅れた。
- ・同釜会へクラウドファンディング支援の依頼メールを送る際に、我々在寮生とOPの間で寮祭に関する認識に大きな差がある事を指摘された。引継ぎ資料に明記することとする。
- ・本年度のクラファン責は2人とも副実長であり、当初の想定よりも多忙であったため、余裕をもってクラファンを運営出来なかった。

12.タテカン責

【制作したタテカン】

- ・D棟コンパ用巨大タテカン(16枚看)
- ・BC棟間宣伝タテカン(9枚看)

・クラウドファンディング返礼用タテカン(2枚看)

寮祭実タテカン責として以上のタテカンを制作した。

【各タテカンの概要・制作経緯】

・D棟コンパ用巨大タテカン

寮祭初日の11/25に開催されたD棟コンパの会場(楠前)の背景となる巨大タテカンを制作した。デザインは、タテカンの後ろに位置することになる本物の楠とタテカンの楠のデザインが前から見て重なるように設計した。10月末に正副から要請を受けて構想したため残り時間を鑑みて枚数は4×4の16枚とした。16枚のベニヤ板を西院のコーナンPROまで買い出しに行くなどの初動が遅れたのとタテカン責内の連携が上手く取れなかったことで、実際に描き始めたのはD棟コンパの1週間前となってしまった。16枚ものベニヤ板の白塗りは寮祭実会議後のコンパと並行して行い、多くの寮祭実が手伝ってくれた。楠の葉もいろいろな人に思い思いの色でカラフルに塗ってもらおうという構想のデザインだったので、寮祭開始直前で多忙を極める中でも12名の寮祭実が色塗りを手伝ってくれ、大いに助かった。

16枚看の防衛の経緯についてはD棟コンパの集約・総括を参照してもらいたい。11/24の24時頃から寮を出発して楠木前でタテカンの設置を始めた。寮で2枚一組にビス止めした2m×2mの正方形ブロック8枚を軽トラに積んで運んだ。1ブロックにつき2人として16人以上の人手が集まったので円滑にタテカンを移動させることができた。ベテラン寮生の骨組み設計の技術により、ビス止めだけによって速やかに組み立て・立ち上げができた。立ち上げる際は、骨組みやタテカンを数人で支えながらタテカンの裏側に固定した数本のロープを時計台側に一気に引っ張ることで立ち上げた。立ち上げ後はロープを楠木周辺のベンチに掛け付けタテカンが南側に倒れないように固定し、タテカン前(南側)に畳を敷き防衛を開始した。

D棟コンパ終了後は速やかにタテカン前の畳やこたつ、荷物類を移動させるとともにロープをベンチから解き、タテカン前に十分なスペース(4m×8m以上)を確保した上でそこに人を入れないように周知した状態で、骨組みやタテカンを支えながら一気に南側に倒して解体を始めた。

・BC棟間宣伝タテカン

寮祭二日目にBC棟間の渡り廊下に立て看を立てた。サイズは540×270の9枚看で、設営はその時お手隙の寮生に手伝ってもらった。予算をあらかじめ一部お借りして、コーナンまで車を出してペンキやハケを買いに行った。37000円ほどの前借りをしたが迷惑だったかもしれない。また、食北を10日ほど占有して絵を描いたが、下書きをかつちり終わらせなかったこと、(個人的な問題だが)ブランクを考慮して予定を立てなかったことにより、締切三日前に全てやり直すことになり、京大ダークの食北ライブと重なったことで民生池の前で描くことになった。ペンキを使い過ぎたことなど、立て看責内でコミュニケーションが存在しなかったことによる問題があった可能性があり、そこは反省である。まとめると、立て看制作がかなり個人の裁量によって進むことが、特に複数人での作業に悪影響を及ぼす可能性があるのも、密にコミュニケーションをとることと、下書きとその共有、合意を取るようなルールがあってもいいかもしれない。今回の私の立て看板はかなり間に合わせで、あんまり寮祭っぽくないものに仕上がってしまった。自分と言うのもおかしい話だが、個人の裁量にゆだねすぎると一定の質を保つという観点から再現性が低くなってしまうの

で、だるくない程度の共有やルール付けがあってもいいかもしれない。なくてもいいかもしれない。下書きの共有をやるとしたら遅くとも10月中かと思われる。

・クラファン返礼用タテカン

今年の寮祭ではクラウドファンディングを立ち上げ、その返礼の中にタテカンに希望者の名前を書いて百万遍に掲示するという事も追加した。余っていた畳を白塗りし、上から黒字で出資者の名前を列挙しただけの無味乾燥なタテカンとなったが、新しい試みではあった。寮祭最終日の深夜に百万遍交差点に立てに行った。タテカンの運搬や固定のためにベテランを含む3人の寮生に協力してもらった。百万遍交差点の第三象限の公衆電話の横の石垣に立てかけ、ビニルロープでタテカンの上辺を石垣の上の植垣に固定した。

【全体の総括】

今回制作したタテカンの他にも自分がデザインし描く予定だった6枚看が結局描けず仕舞いになってしまった。ひとえにタテカン責である自分の計画性と責任感の無さによるものである。また、D棟コンパの一つの目玉であった16枚看に関しても完成がギリギリになってしまい、各仕事はまだ残っている多忙な寮祭実にも手伝ってもらうことになってしまったことも大きな反省点である。月や週ごとに進捗のペースを決めて計画的に取り組むべきだったのと、精神的にダウンしていた10月は16枚看提起者であるもう一人のタテカン責と現状を共有して適度に頼るべきだったが、そのタテカン責が自由奔放過ぎたためなかなかそれも厳しかったと思われる。10月末頃から一昨年のタテカン責の先輩も加わり16枚看の他に9枚看が制作されたことで、自分の中で最悪6枚看は描けなくても良いかという意識が芽生えたのも良くなかった。やはりD棟コンパの16枚看とは別で、もう一つくらい寮祭宣伝用のタテカンを描きたかったし、描くべきだった。6枚看のデザインは気に入っているので、もし機会があれば次回の寮祭用に来年のタテカン責の邪魔にならない範囲で描けたらと思う。

資材の購入などについては、今年のD棟コンパの予算が14万円あったこともあり、あまり気兼ねなく行うことができたが、NF前のタイミングで安くベニヤを購入できたらしいので、そうした資材調達関連の情報を早い段階でシンゴリラの人などから仕入れておくと思わないと思った。

16枚看に関しては、直前に手伝わせてしまったという反省の一方で多くの1回生と協力して完成させられた点は非常に良かった。特に色とりどりの楠の葉っぱはデザインのコンセプト的にもいろいろな寮祭実の人に描いてもらう意味が非常に大きかったし、通りかかった寮生からもカラフルな葉のデザインは好評だった。物騒でおどろおどろしくない、キャッチーでかわいく馴染みやすいタテカンデザインをこれまで意識してきたので、その方向性が評価された気がして嬉しかった。

13.コロナ対策責

今年度主に実施したこと
感染経路追跡QRコード

クラスターの発生を防止するため、企画参加者一人一人にQRコードへの回答を呼びかけた。最終的には216件の回答が集まったものの、実際に回答された企画は11件のみであり、課題の残る結果となった。エクストリーム帰寮、反ワクチン、などの企画に対し寮外生と思われる回答が多く寄せられた。

寮祭期間中に新型コロナウイルスにかかった人に対して、ヒアリングを行い、京都市の基準で濃厚接触者となっている可能性がある人にはメールを送ろうと思ったが、そもそも企画に対する回答がなかったため、実行することができなかった。多く人が集まるが、寮祭パンフを配らない企画（総長室突入）などは、看板など作ったほうがよかったかもしれない。

結果として、実効性にかける対策にはなってしまったが、とにかく寮祭期間中に大きなクラスターも発生せず、無事乗り切れたことはよかった。

引継ぎ事項

来年度コロナ対策責を作るかどうかは来年度の情勢により臨機応変に決めればよいと思う。

・今年度の実施事項

感染対策用のQR作成

参考までに今年度のQRコードを掲載する。

[連絡先情報 \(google.com\)](https://www.google.com)

・消毒液の買い出し

次年度、もし感染対策の追跡が必要になる場合は、ボツーカーや巨大タテカンがあるとよい。

消毒液の買い出しがぎりぎりかつ、数が少なすぎたので、余裕をもって買いに行くのがよい。

14. 渉外責

【意義と方策】

渉外責は、2021年度寮祭実において新設された責である。渉外責の役割は、寮祭実と寮祭実「外」の寮内の他の組織との折衝を担うことである。2021年度寮祭実において渉外責が設立された経緯を踏まえると、その内実を実質的に、寮祭実と、寮祭における実力闘争を提起する有志やSC(常任委員会)などの部局との間の折衝ということになるであろう。ここに、寮祭における実力闘争とは、顕著には「時計台占拠」「総長室突入」などの企画、広くは多種多様な企画において警察や大学当局との対峙が迫られるという事態に対するマインドにまで拡張される。雑観だが、1回生中心の寮祭実と上回生とでは、上回生側が寮祭における、そして寮祭を通じた実力闘争の意義を説き、1回生はそれに対して前提が不足している場合が多いこともあり多様な反応を示すという傾向になりやすい。このような認識を踏まえると、1回生中心の寮祭実と上回生中心の集団(有志や部局)との間を折衝する渉外責には、「寮祭における実力闘争」というテーマに関して、上回生中心の集団の主張・意見に耳を傾けてその発する所を理解し、それを1回生に説明することを通じて理解・反応を促進し、という繰り返しの中で、議論と相互理解を深めることが求められる。

そのための具体的な方策として、SC会議や実力闘争の検討会などに出席することを通じて、実力闘争の意義を説く上回生とその主張・意見の骨子を理解すると共に、寮祭実会議や正副会議などに出席することを通じて、1回生の実力闘争に対する理解・反応を促進し、それを上回生に...ということを繰り返し続けることが求められる。

【総括】

渉外責の当人が議論改善PTに属していたため、議論改善PTとしての実力闘争検討会の開催・議長としての司会進行を通じて、寮祭実の1回生のみならず幅広い寮生と、実力闘争の提起者との間の、全寮的な議論を喚起した。実力闘争に関する広範な対話の機会を設けたことは、寮祭実1回生の実力闘争に対する理解を深めただけでなく、結果として寮祭実1回生の意見を実力闘争の内容に反映させることにも繋がった。この点は総括として評価すべき事項であると考えられる。

出来なかったこと。検討会の開催・提起者との打ち合わせは綿密に行えたが、主に渉外責の時間的余裕の無さから、寮祭実会議・正副会議へ出席しての説明・反応の収集等を行えたと言いはない。また、検討会が軌道に乗るまでの寮祭実会議においては、実力闘争に関する話題を提起することが難しい状態にあり、実力闘争に関する話題について提起しようとした寮祭実の1回生がいたが、これに対しても十分な措置を講じることができなかった。

前年においては、実力闘争の提起者が寮祭実から有志に変更となり、最終的に採決は寮生集会で行われた。このような流動的な状況を予期しそれに対応するため、渉外責は設置されたものと推測するが、本年においては、実力闘争の議論は4回の検討会と4回のブロック会議で、採決もブロック会議上で行われたため、議論の過度な紛糾は抑えられた。また、その議論も、個々の寮祭実員は参加するが、形式としては寮祭実とは無関係であるという立て付けで行われた。そのため、前年と比較して、渉外責の業務内容は大幅に変化している。次年度においても、渉外責が本年と同様に議論改善PTを兼務しているとは限らない。よって、本年とその活動内容が大きく異なってくる場合もあるだろうが、渉外責となった人物が自分の強みを生かせる方法として、寮祭実に貢献するように努めて欲しいと思う。

本責は、調整や議論を対象として活動を行うため、他の責とやや性格を異にする部分がある。強い1回生か、そうでなければ上回生の新入寮生を寮祭実に獲得した上で、その人を渉外責にするのが望ましいと考える。

15.人権擁護責

主な仕事:コンパの主催・寮祭のハラ対グルへの参加

総括:コンパを寮祭実連帯のために開催していたが、故副実長のYSDが人権擁護責を兼任していたことからコンパの運営が人権擁護責ではなく正副実長に集中した。またハラ対グルに参加していたものの実働はなかった。